

唐津市立北波小学校
第2号

小中連携学力向上だより

2022.8.31発行
文責：研究推進部

外部講師招聘による研修

外部講師の先生方のお力を借りながら、校内研究を進めています。

6月1日（水）、浦郷 淳先生（長崎国際大学）を招聘し、算数が楽しいと思う児童を育成するために、単元設定のポイントや対話が生まれる授業の工夫等について講話をしていただき理解を深めました。

＜単元の設定＞

- ①教えることと考えさせる場を設けることを意識する
- ②子どもに身に付けてほしいこと（資質・能力）は何かを明確にする
- ③系統性を考える

＜対話のある授業を創るために＞

- ①力のある教材を準備する
- ②児童が困る（簡単に答えが出せない）場面を設定する →自然と対話をしたくなる
- ③対話したことを発表させる →対話のよさを実感する

8月2日（火）午前中、加国希支男先生（東京学芸大学附属小金井小学校）を招聘し、5年生への模範授業、講話をしていただきました。

子どもたちが自ら整数を類別する観点について考える授業でした。「整数を□つのグループに分けましょう」というめあてのもと、導入では、子どもたちは、□に2を入れ、1～20の整数を2つに類別するための観点について考えました。その後、2つに類別する観点の中で「2をかけて作った数+1」という観点について確認し、自由に□に入る数を決め、自分なりに整数を類別する観点を考えていきました。

整数を類別する様々な観点を共有した子どもたちは、多様な観点があることを理解するとともに、類別する観点を自分なりの「根拠」（数学的な見方）をもとに決めてよいということを学びました。どの子も主体的に学習に取り組んでいました。



8月2日（火）午後は、副島和久先生（金立小学校）を招聘し、学習指導要領が求めている授業づくり・評価について講話をしていただきました。教師がやるべきこと（①児童生徒に身に付けたい資質・能力を明確にする。②その力が身に付くように主体的・対話的で深い学びの視点から授業改善を図る。③その力が身に付いたかどうかを評価し、指導等に活かす。）について、理解を深めました。

学んだことを生かし、実践的研究を進めていきます。